

なごやの学童保育

市連協ニュース No.3

2016年度・7月5日発行
 名古屋市学童保育連絡協議会
 TEL (052) - 872 - 1972
 FAX (052) - 308 - 3324
 E-Mail: info@gakudou-nagoya.org

HP <http://gakudou.kodomo.co/> Facebook <https://www.facebook.com/NagoyaNoGakudouHoiku>

悩みや工夫を共有

入所活動交流会を開催

名古屋市学童保育連絡協議会（市連協）は6月21日(火)、金山の労働会館で2016年度第1回の入所活動交流会を開きました。



まず「年間を通じた入所活動」について守山区鳥羽見学童保育所の保護者が取り組みを報告。ポイントに「まず親自身が学童生活を楽しむ」、「地域との繋がりを大切にする」などを挙げ、「入所検討家庭に学童の様子をビジュアルで分かりやすく伝える」、「就学児検診を活用して保護者へ学童保育をアピールする」、「新1年生家庭と交流して学童を楽しんでもらう」などの工夫を披露。一見、入所活動には関係ないようで実は深くつながっている事例を織り交ぜながら、入所説明会までにやれることをたくさん紹介しました。

報告を聞く参加者16人の表情は真剣そのもの。「ウン、ウン」と大きくなずいたり、「へえ～」と驚きの声を上げたり、時には報告者のこぼれ話に笑ったり。報告者と参加者の気持ちの距離が非常に近い事例報告となりました。

報告後は、全員でディスカッションし、困ったことや悩みを相談し合いました。「うちの学童ではこんな取り組みしているよ」など一押し活動も紹介(自慢!?)

し合うなど、活発に参加者の声が飛び交う良い雰囲気、時間があっという間に過ぎていきました。

報告者自身も、以前に参加した入所活動交流会で聞いて学んだ取り組みを実践し、挑戦している保護者の一人です。この交流会を軸に、入所活動のバトンがまた別のの人に受け渡されたように感じました。これからもどんどんバトンがつながるといいですね。

第2回入所活動交流会は、入所活動の本格始動に間に合う9月20日(火)に予定しています。みなさんが「これはいい!」という入所活動のネタが盛り沢山の内容となるよう、みなさんの声も聞きながら企画をしていきます。入所活動交流会は、困っている人も困っていない人も、相談したりアドバイスしたりし合える、学童保育に関する交流の場です。一度、足を運んでみませんか。

参加申込・Tシャツ販売を開始

全国学童保育研究集会 in あいち



10月29日(土)、30日(日)に愛知県で開催する「全国学童保育研究集会

in あいち」の実行委員会は、参加申し込みの受け付けとオリジナルTシャツの販売を始めました。

参加申し込み用紙(A3四つ折りのリーフレット)は各学童保育所に郵送済みです。Tシャツは生地が黒、シールブルー、ピンクの3色でインクは白。販売用チラシを実行委員などに配布しました。父母会などで誘い合い、多数の参加申し込み、Tシャツの愛用をお願いします!



<前面デザイン> <背面デザイン>



「種は子どもの中にある」

奈良での指導員学校に参加

全国学童保育連絡協議会(全国連協)は、毎年全国各地別に学童保育指導員の研修会「指導員学校」を開いています。6月5日(日)開催の西日本奈良会場(奈良県生駒市)に名古屋市の指導員たちも参加しました。「種は子どもの中にある」という主旨の午前の講演(講師曰く、教育漫談)を聞けただけでも十分満足でした。午後の分科会では、全国どこでも同じ内容、同じ保育が実践されるようになってきたと実感できました。

(名東区指導員・亀井達也)

全体会の講師は「文化の種をまく教師に憧れてなった」という元中学校教師の福井雅英さん(滋賀県立大学特任教授)でした。内容は次の通りです。

「一般的には不良少年と呼ばれるような生徒との関係作りの中で、毎日働きかけてきたけど、どうもうまくいかない。それまで正しいと思ってやってきたやり方は間違っていたのではと、はたと気づく。『良い子、できる子、がんばる子競争』の中で安心して自分を出すことができなくなっている現在の子どもたち。そうした中で自己否定感が強まっていく」

「子どもの言葉の裏側を読み解いていけば、不適切と思える行動にもそうしなければならない理由があるはずということに気づいて、子どもを横並びに見るのではなく、誰一人として同じような子はいないのだからという視点に立って子どもたちを見ることによって、子どものありのままの姿を受け止める」

『素のままの自分』が肯定されことに重要な意味が生まれる。失敗しても大丈夫という事を伝えるだけで、子どもたちは変わっていった」

私には、「種はまかなくても、すでに種は子どもたち自身の中にあり、いずれそのことに気付く」という一大スペクタクルを面白おかしく聞かせていただく中で、「自分の学童にも同じことが言えるなあ」と気づくことがいくつもありました。そこから始め、社会連帯性を育むことにつなげていきたいと思いました。

午後は指導員の仕事の確かめについての分科会に参加しました。グループディスカッションで、経験1、2

年の新人指導員2人が悩みを打ち明けました。いずれも“学童あるある”ですが、「子どもになめられる」ということでした。

ベテラン指導員からは、「状況はつらいかもしれないが、なめられることは悪いことばかりとは限らない、権威主義な大人でないことが子どもの良さを引き出すこともある」、「経験がある指導員に対する子どもの態度との違いに悩むことがあるかもしれないが、日ごろの保育の中で関係性を築きあげることが大切であって、威厳や怖さで抑圧しても仕方がない」という意見がありました。全体会の中で話されていた「子どもの素の姿を引き出す」ということを確認できました。

ほいく誌普及拡大会議を開催

「日本の学童ほいく」(通称=ほいく誌)は日本で唯一の学童保育の専門月刊誌です。

市連協は6月26日(日)に名古屋市博物館ホールで愛知学童保育連絡協議会(県連協)と共同で、2016年度第1回の「ほいく誌普及拡大会議」を開きました。名古屋市各区や他市の担当者が、購読の意義や普及への工夫について話し合いました。

◎詳細は、7月下旬に発行し、ほいく誌に同梱してお届けする普及拡大活動ニュース「ほいく誌ファン」で紹介します。

実態を調査し、課題に対処

専門部紹介・第2回 しょうがい児部会

市連協のしょうがい児部会は、1人の現役保護者と2人の保護者OB、2人の学童保育指導員の計5人で活動しています。最近はなかなか全員が集まりにくく、やれることをぼちぼちと行っています。会議は、毎月第1水曜日20時から金山・労働会館で開いています。活動内容は次の通りです。

①市内学童保育でのしょうがい児保育の実態調査
(アンケートなどの実施)

②行政施策の評価・改善策の提案
(他都市との比較なども)

③学童保育指導員の保育づくりの課題への対処

④施設・設備改善の課題への対処

⑤愛知学童保育研究集会での分科会運営検討など
誰でも参加できますので、興味とともにいつでも覗いてください。待っています。